

ゴミ収集袋代

全額町村負担

無化料

には問題

加入率が
29パーセント

総合開発・保育料・借入金等9項目の一般質問

一般質問は、総合開発や観光開発等のほか、住民生活に影響の強いゴミ袋や保育料等の問題に質問が集中しました。

総合開発

大総地域の開発により森林分布もかわると思うが、自然雨水のみに頼っているこの地域の農地への影響はないか。複合開発による排水計画は、ゴルフ場予定地内に農業振興地域が約15haあると聞いているが実態は、また、今後の対応は。

開発については、県庁内の関係部各課の専門職員により構成された審査機関があり、厳重な検討審査が行われ、あらゆる問題を網羅した指摘事項の審査を通じて始めて事前

協議の許可がおりるしくみになっている。

造成後の工業団地には、緑地帯として計画面積の20%以上の山林を残すよう規制があり、また、調整池も造成面積を基準に造らなければならない等、厳重に規制されている。

なお、ゴルフ場については、工業団地以上に厳格な審査で山林は計画面積の最低40%を残し、なお且つ8haの調整池をつくる。この調整池は常時15万^リ(坂田池に匹敵)貯水し、最大32万^リの貯水量を確保できる。

地元の要望もあり、これに水門を施し、渇水時には水田に流せるよう町から企業に申し入れ、そのように計画されている。

排水については、関係土地改良区の同意を得て、長倉・取立排水路から中学校裏の排

水路を経由し、栗山川に流す計画だ。取立から1.2kmは、現在素掘りの排水路だが、県の企業庁、東京グリーン、町の三者が協議してU型柵渠等の整備をする。

86haのゴルフ場の中には、農業振興地域整備計画で定め

られた農用地は入っていない。また、この地区の排水対策として、団体営土地改良総合整備事業を検討しているが、複合開発計画との関連もあるので、今後、関係機関等と協議していく。

2期工事に伴う騒音対策を推進

航空機騒音対策

開港当初、1日に17便だった航空機の発着回数は、現在29便と57便も増えている。

B滑走路供用開始後には、更に現在の約2倍になると言われているが、今後の騒音対策

について伺いたい。

A滑走路の騒音コンターが環境基準の改正等により若干広がったものの、長倉、牛熊のように集落を分断するような不公平な線引きをされる結果となった。

牛熊・谷台については、谷間対策に準ずるものとして供

用開始後の取り扱いに関する文書を得ているが、それ以前であっても、急を要する世帯に対しては、この適用が受けられるよう陳情してある。町全体についての騒音対策についても、十分考えていかなければならない。